

④ 静岡県抑留犠牲者慰霊碑

戦後、多くの日本人がソ連軍によってシベリアやモンゴルに連行され、重労働を強制されました。厳しい寒さと飢えの中、静岡県出身者も2,000人近くがふるさとに帰りたいと願いながら亡くなっていったとされています。



戦争中の多くの人々の犠牲の記憶とともにシベリア抑留の歴史を伝えるため、平成15年(2003年)に建てられました。



⑤ 大芝裁縫女学校跡



大芝裁縫女学校は、太平洋戦争による労働力不足を補うため、国策として女性を軍需工場へ送り込む「女子挺身勤労令」のもと、昭和19年(1944年)5月廃校が決定。校舎は解体し、資材は旧清水市の工場宿舎に使用され、卒業生は市内印刷工場に女子挺身隊として送り込まれました。



昭和62年(1987年)、卒業生の有志により同校跡地に記念碑が建立されました。



⑥ 空襲で破壊された鳥居跡

B29爆撃機による本土空襲が繰り返されていた昭和20年(1945年)4月9日、米軍機が投下した爆弾が中桁神明宮の鳥居近くに落下しました。

ものすごい爆風のため、近くの民家は一瞬にしてつぶれ、一家5人が亡くなりました。投弾は、中桁、長沢、片宿などの9か所におよび、重軽傷者や家屋の被害も出ました。このとき、破壊された鳥居の一部が、現在も残っています。



⑩ 米の宮公園に植えられた被爆二世クスノキとアオギリ

公園の一角に2本のクスノキが植えられています。「親木」は長崎にある「被爆クスノキ」です。平成11年(1999年)、富士商工会議所の関係者が長崎を訪れ、「被爆クスノキ」の種から発芽した苗木を富士市に持ち帰りました。この苗木を平成13年(2001年)8月9日「長崎原爆の日」に植樹しました。



「被爆二世クスノキ」

「ぐるん・ば よねのみや」の前には、1本のアオギリが植えられています。「親木」は広島で被爆の惨禍に遭いながらも、焦土の中で青々と芽を吹き返し、広島の人々に生きる勇気と希望を与えました。平成27年(2015年)11月、富士市が核兵器廃絶平和都市宣言をしてから30年の節目を迎えたことを記念して、「被爆アオギリ」の種から発芽した苗木を「平和首長会議」から頂き、植樹しました。



「被爆二世アオギリ」

かくへい き はいぜつへい わ と し せんげん 核兵器廃絶平和都市宣言

戦争の惨禍をなくし 世界の恒久平和を実現することは全人類の願いであり 世界で初めての被爆体験を持つ日本国民の悲願である

しかしながら 核軍備拡大競争は 依然として進み 平和に対する 深刻な脅威と戦争の危険は後退していない 富士市は 平和憲法のもとで 平和で明るい生活を享受するため 市民憲章を制定し 市民の行動原理として培ってきている

富士市民は 戦争をなくし 真の平和を実現するための努力を明らかにし 富士山のように広く 美しく 高く たくましく 正しく生きることを悠久の理想として 非核三原則を遵守し すべての核兵器の廃絶を求め、市民の総意とする平和都市をここに宣言する

昭和60年11月19日 富士市

核兵器廃絶平和都市宣言 35周年記念

—平和を考える— 戦争の歴史を たどるMAP



富士市

発行元：富士市総務部シティプロモーション課 広報広聴担当
協力：核兵器廃絶平和富士市民の会

発行：令和2年11月

⑦ 中国人殉難者慰霊碑

富士飛行場建設のため中国から504人が連行され、栄養失調などで52人が亡くなり、ここに埋葬されました。昭和23年(1948年)に慰霊碑建立。

昭和29年(1954年)5月に遺骨の発掘と慰霊祭が行われ、同年11月に遺骨は中国に送還されました。毎年7月に地元中丸区と富士市日中友好協会が中心となって慰霊祭を行っています。



⑧ 少年戦車兵慰霊碑

昭和18年(1943年)3月、富士郡上井出村(現富士宮市)にあった陸軍少年戦車兵学校の生徒(当時18歳・広島県出身)が、



夜間訓練中に操縦を誤り、戦車ごと神戸橋近くの12メートル下の滝川に転落し、殉職しました。大事故であったため、近くの住民も総出で救助に協力しました。

同年11月、慰霊の碑が建てられました。



⑨ 同じ形の石碑が並ぶ軍人墓地



旧須津村の遺族会によってつくられた軍人墓地には、同じ形の石碑が224柱建立され、戦死した人々をまつています。

毎年、秋のお彼岸の中日には、高齢化した遺族会に代わって地元の連合町内会がここで慰霊祭を行い、平和への祈りを捧げています。

